

こそだてねっちゅう
オアシスふちゅう



【令和7年度】 国の予算に関する提案書



～ごあいさつ～

府中町政の推進にあたりましては、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年までの当町提案につきましても、格段のご配慮をいただきまして、着実に課題解決のための事業を推進することができておりますことについて、重ねてお礼申し上げます。

私は、このたびの町長選挙にあたり、多くの町民の方々のご支持とご支援を賜り、当選の栄に浴し、さる6月4日に府中町長に新たに就任いたしました。当町の「府中町第4次総合計画」を基本に、これまで取り組んできました政策、施策、事業を継続して着実に実施するとともに、選挙の公約で掲げた各種政策の実現を加え、町民の方々が「暮らし心地が一番」と感じていただける町の実現に向けた取り組みをより一層、進めています。

つきましては、当町の振興を図る上での最重点課題について、次のとおり提案させていただきますので、令和7年度の予算編成並びに施策の決定にあたりましては、なお一層のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年9月

広島県安芸郡府中町

府中町長 寺尾 光司



提案にあたって

当町はＪＲ広島駅の東方約３kmに位置し、周囲を広島市に囲まれた、町域 10.41 ㎢（市街化区域は 5.64 ㎢）のまちです。町人口は約 5 万 3 千人で、日本で最も人口が多い町であり、人口密度が高いコンパクトシティを既に形成しています。また、広島地域経済を牽引する自動車メーカー（マツダ株式会社）の本社所在地でもあり、町内の向洋駅周辺はその玄関口です。

平成 16 年 3 月には大規模複合商業施設であるイオンモール広島府中が開業し、現在は「商・工・住のバランスがとれたまち」として各種施策の推進に努めていますが、安心・安全の分野を中心とした都市基盤上の課題があります。それらの課題を本提案項目の推進によって解決することは、地域経済活動の円滑化など、好循環にも資するものと考えられます。

全国的な人口減少社会に向かい、予算配分にあっては選択と集中の必要性がうたわれる中、広島都市圏中心部に位置し、高い人口密度と地域の基幹産業を有する当町の提案について、何卒ご高配をお願いいたします。

【 提 案 項 目 】

令和 7 年度府中町主要事業計画図・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

《国土交通省関係》

1 広島圏都市計画事業

向洋駅周辺土地区画整理事業の推進について・・・・・・・・ 3

2 公共下水道事業の推進について・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

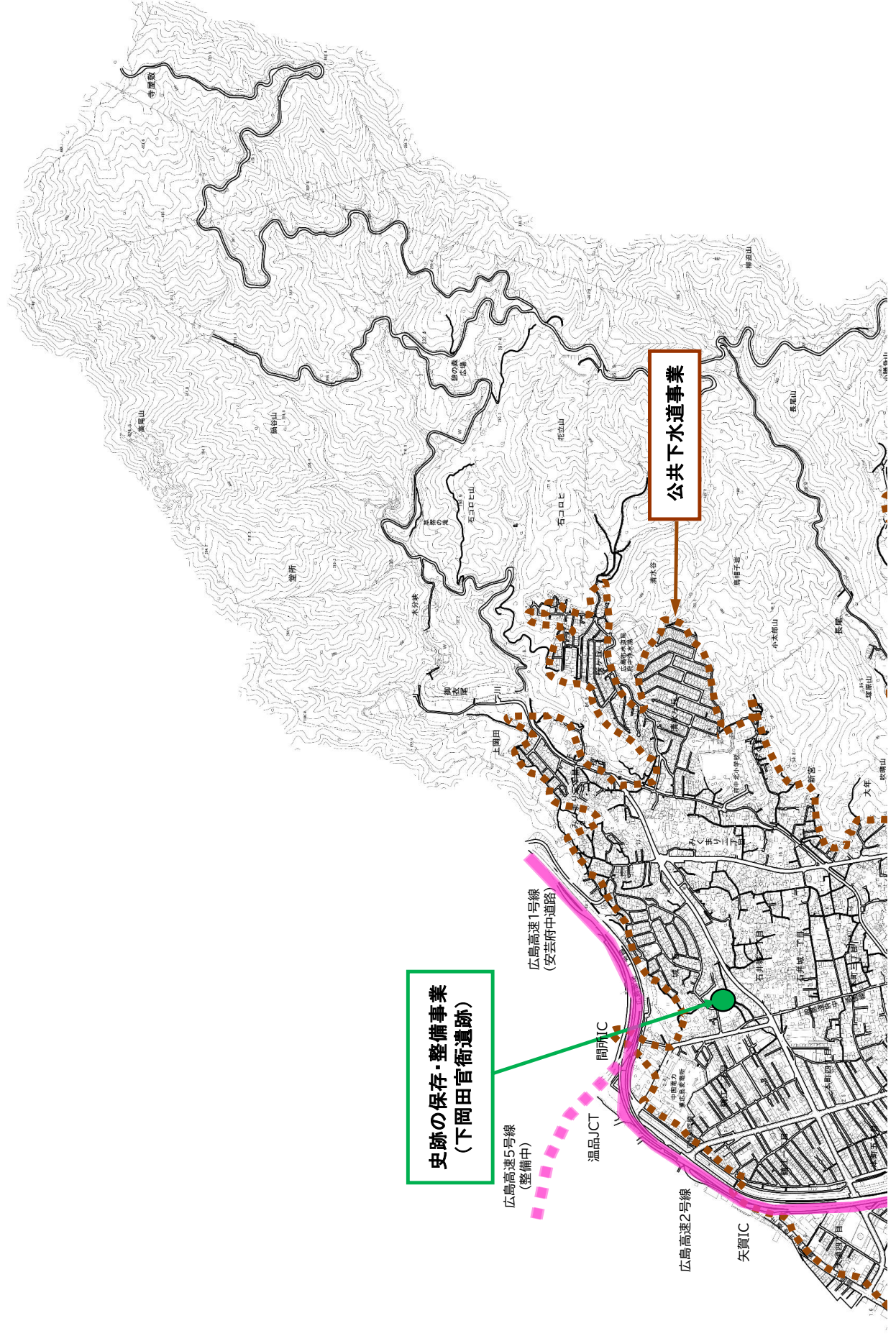
《文部科学省関係》

3 史跡の保存・整備事業の推進について・・・・・・・・・・・・ 7

《総務省関係》

4 地域手当支給割合（級地区分）の
変更について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

令和7年度府中町主要事業計画図



提 案 項 目	広島圏都市計画事業 向洋駅周辺土地地区画整理事業の推進について				
事 業 主 体	府 中 町	事 業 期 間	H14～R15	提 案 先	国土交通省
提 案 要 旨	向洋駅周辺土地地区画整理事業の着実な推進のための事業費確保				

現状及び課題

【 現 状 】

向洋駅周辺地区は、地区の中央をＪＲ山陽本線が縦断しており、踏切による交通遮断に伴う渋滞が慢性的に発生しています。向洋駅周辺土地地区画整理事業は、平成14年に事業計画決定を行い、ＪＲの北側は、広島市東部地区連続立体交差事業に関連する区域を除き、概ね整備が完了しています。南側は、都市基盤が脆弱であり、老朽化した住宅や小規模な商業施設が密集しているため、平成28年から道路や街区整備を行い、全体の画地整備率は令和5年度末時点で約77%となっています。

また、鉄道により地域が分断されることにより地域の拠点としての機能が欠如しており、その解消に向けて、令和6年2月までに仮線全4線のうち2線の切り換えが完了するなど、広島市東部地区連続立体交差事業、向洋駅周辺土地地区画整理事業を一体的に推進しています。

【 課 題 】

ＪＲ向洋駅は、マツダ株式会社本社の最寄り駅となっており、一日当たりの駅利用者数は約1万7千人（令和4年）と県内でも8番目に利用者が多い駅ですが、駅周辺は都市基盤が脆弱であり、広島都市圏東部地区の地域の拠点として、また町の南の玄関口として活力と賑わいに欠け、交通結節拠点としての機能も乏しい状況にあることから、都市機能の強化や都市の強靱化を図っていく必要があります。

また、事業が長期化することにより地域住民をはじめ、地元企業や関係者の負担が大きくなることから、早期事業完了についての要望があることを踏まえ、更なる事業の推進が必要です。

これまでの状況及び今後の計画

向洋駅周辺土地地区画整理事業（A=約12.2ha）

平成11年 3月	都市計画決定
平成14年11月	事業計画の決定
平成20年 1月	北側仮換地指定、家屋移転補償、工事
平成23年 3月	ＪＲ向洋駅仮設北口改札開設
平成25年度以降	南側仮換地指定、家屋移転補償、工事
令和14年度	工事完成
令和15年度	換地処分、清算

【参考】広島市東部地区連続立体交差事業 （事業主体：広島県・広島市）

平成11年 3月	都市計画決定
平成14年 3月	事業認可
令和元年 5月	都市計画変更
令和元年10月	事業認可
令和 2年10月	工事着手

向洋駅周辺土地地区画整理事業整備状況

【令和6年度末事業整備予定】

○ 画地面積ベース	6.11ha/7.82ha（全体）≒78%
○ 移転補償ベース	205戸/222戸（全体）≒92%
○ 事業費ベース	147億円/177億円（全体）≒83%

【向洋駅南口周辺状況】



【向洋駅北口周辺状況】



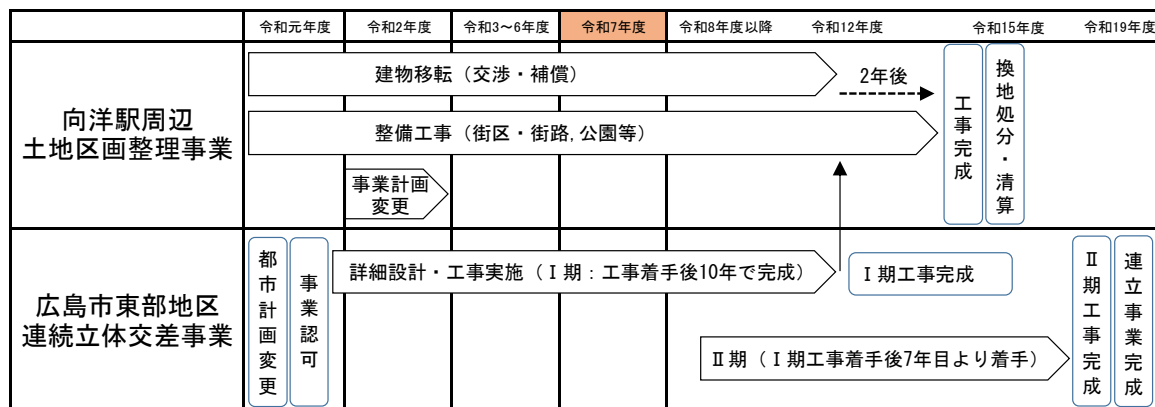
提案概要

向洋駅周辺土地地区画整理事業に係る社会資本整備総合交付金の確実な配分

関連事業である広島市東部地区連続立体交差事業は、平成24年2月から平成30年12月の約7年間事業見直しのため中断していましたが、令和元年5月に都市計画変更、同10月に事業認可を取得し、令和2年10月に工事着手しているところです。本土地地区画整理事業は、広島市東部地区連続立体交差事業の事業認可に合わせて、令和3年4月に事業計画の変更、事業スケジュールの調整を行い、広島市東部地区連続立体交差事業の影響を受けない箇所から整備を行っています。

今後も引き続き両事業を推進することにより、安心・安全で快適に暮らせる環境の確保や利便性の向上、賑わいの創出、商業の活性化など様々な効果が期待されます。

そのため、広島市東部地区連続立体交差事業が本格着手された中で、本事業も着実に推し進める必要があり、継続的な事業費の確保が必要となることから、社会資本整備総合交付金の確実な配分を要望します。

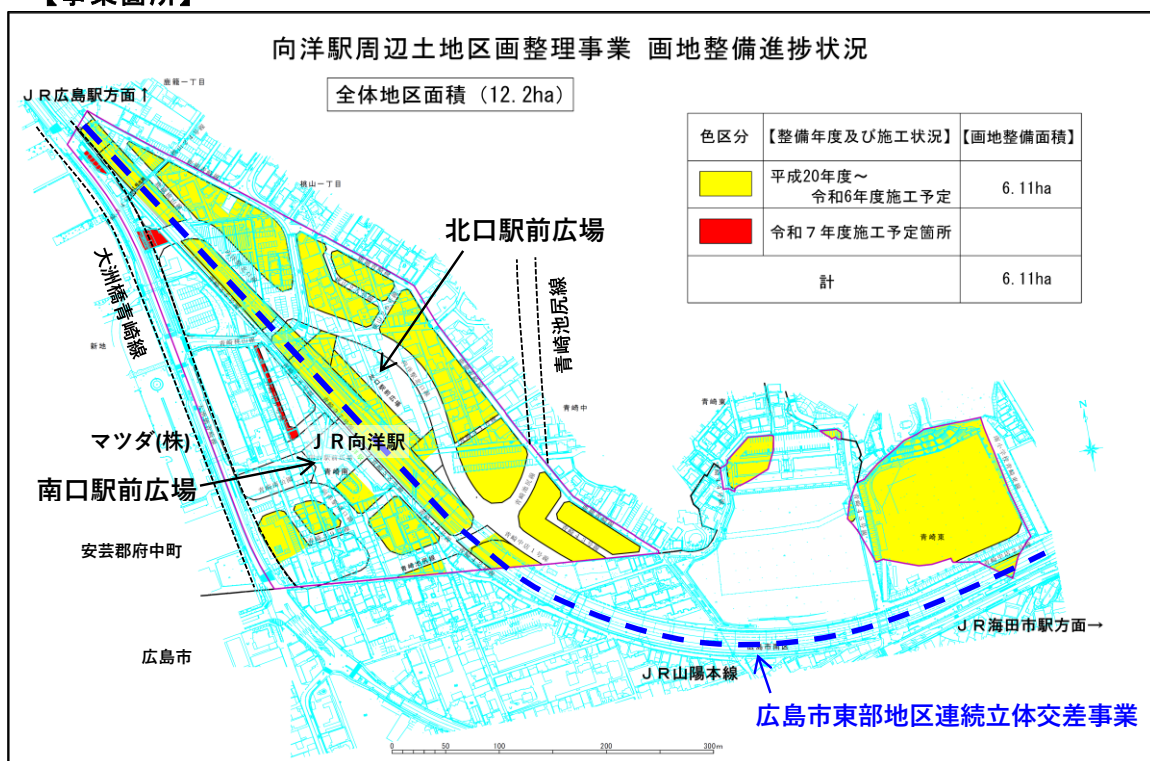


【令和7年度執行予定】

- 整備計画名：府中町中心市街地のにぎわい再生と安全・安心なまちづくり（防災・安全）
（単位：千円）

	補助対象事業費	25,700
国費	防災・安全交付金	13,735
(内訳)	基幹事業（道路）	9,735
	基幹事業（市街地整備）	4,000

【事業箇所】



提 案 項 目	公共下水道事業の推進について				
事 業 主 体	府 中 町	事 業 期 間	S59～	提 案 先	国土交通省
提 案 要 旨	公共下水道の整備及び老朽化した既存施設の改築・更新のための事業費確保				

現状及び課題

【 現 状 】

当町の公共下水道事業は、「広島湾流域別下水道整備総合計画」を上位計画とし、住民の生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため整備を進めており、公共下水道(汚水)の人口普及率は、99.0%(令和5年度末現在)となっています。

市街地の浸水対策として、3箇所の雨水ポンプ施設を整備しており、現在は「府中町下水道ストックマネジメント計画」に基づき、計画的かつ効率的に維持管理を行っています。

また、本事業は、「府中町国土強靱化地域計画」において、当町の国土強靱化を図る上で重要な事業と位置付けており、雨水事業は太田川水系流域治水プロジェクトにも位置付けています。

【 課 題 】

①汚水管渠の面整備及び改築更新

汚水管渠は、10年概成を目標に狭小道路のある地区の面整備事業を推進していく必要があります。

また、平成元年より供用開始しており、供用開始後20年以上が経過した汚水管渠が約60%あります。このことから、汚水管渠の機能を持続的に確保するため、下水道ストックマネジメント計画に基づき、点検、調査、改築更新を継続して進めていく必要があります。

②雨水ポンプ場、雨水管渠の改築更新

雨水施設の機能を持続的に確保するため、供用開始から30年以上経過した雨水ポンプ場や昭和40年代から60年代にかけて整備された幹線管渠を、下水道ストックマネジメント計画に基づき、改築更新を継続して進めていく必要があります。

これまでの状況及び今後の計画

社会資本整備総合交付金事業(令和5～11年度の7箇年)

1 下水道事業：社会資本整備総合交付金(汚水面整備事業)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
下水道処理人口普及率	99.0%	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2 下水道事業：防災・安全交付金(ストックマネジメント支援事業、内水浸水リスクマネジメント推進事業)

対象施設		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
汚水管渠	汚水管渠	点 検 業 務						
		改 築 工 事						
雨水管渠	茂陰1号幹線	改 築 工 事						
	鹿籠2号幹線							詳細設計
雨水ポンプ場 (府中P)	機械設備	更 新 工 事						
	土木・建築		耐水化工事					
雨水ポンプ場 (宮の町P)	機械・電気設備				基本設計	詳細設計	改 築 工 事	
	土木・建築							
雨水	事業計画区域		内水浸水想定 区域図作成					

提案概要

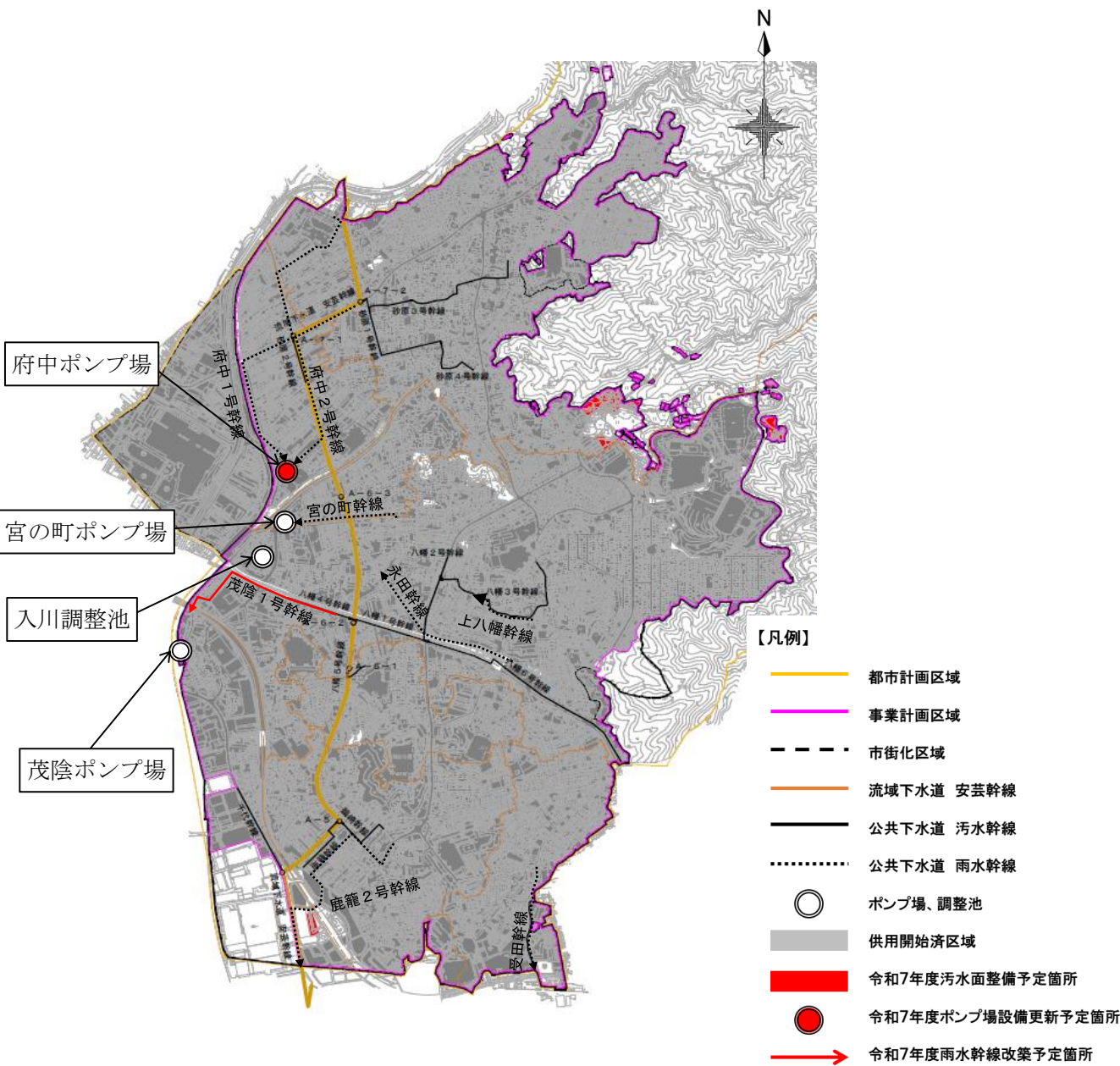
下水道事業に係る社会資本整備総合交付金の確実な配分

下水道は、住民の安心・安全で快適な生活を確保し、社会経済活動を根底から支える都市の基盤であり、着実な整備及び適正な維持管理により、初めてその役割を果たすものであることから、安定した事業費の確保を要望します。

【令和7年度事業】

○ 整備計画名：府中町公共下水道		(単位：千円)
	補助対象事業費	110,000
国費	社会資本整備総合交付金	55,000
○ 整備計画名：府中町公共下水道（防災・安全）		(単位：千円)
	補助対象事業費	431,790
国費	防災・安全交付金	215,895

【事業計画区域】 府中町公共下水道整備計画図



提 案 項 目	史跡の保存・整備事業の推進について				
事 業 主 体	府 中 町	事 業 期 間	R4～	提 案 先	文部科学省 (文化庁)
提 案 要 旨	史跡下岡田官衙遺跡の保存・整備事業の着実な推進のための事業費確保				

現状及び課題

【 現 状 】

下岡田遺跡は、府中町の北西部に位置し、昭和32年、城ヶ丘団地入口道路工事の際に発見されました。昭和38年から9次にわたる発掘調査を行い、平成28年度からは文化財担当者を2名増員するとともに、下岡田遺跡調査指導委員会を設置。その指導の下、第10次・第11次発掘調査を実施しました。

第1次～第9次調査成果及び第10次・第11次調査の内容を整理・検討し、下岡田遺跡調査指導委員会に諮りながら、文化庁文化財第二課及び広島県教育委員会事務局文化財課の協力と指導を得て、令和元年度に遺跡の価値付けを行った報告書を作成しました。

翌年度の7月に文化庁へ意見具申を行い、令和3年3月26日付けで「下岡田官衙遺跡」として史跡指定を受けました。

令和6年3月には、「史跡下岡田官衙遺跡保存活用計画」を策定し、史跡の本質的価値を明らかにするとともに、より効果的な保存管理、活用、整備に関する基本方針を定めました。

【 課 題 】

段階的に史跡指定地の公有化を進めるとともに、追加指定の可能性を検討する必要があります。

本史跡を、学校教育の場、社会教育の場、地域学習の場と位置付け、更には観光活性化とも結び付け、ストーリー性のある広域的な活用を展開する必要があります。

これまでの状況及び今後の計画

【 これまでの状況 】

○ 発掘調査

第1次調査（昭和38年度）～第12次調査（令和3年度）

○ 下岡田遺跡の普及・啓発事業として講座を開催（平成22年度から毎年実施）

○ 府中町文化財担当者配置：主幹（平成28年度～令和元年度、令和4年度～）

○ 府中町下岡田遺跡発掘調査報告書Ⅰの刊行（令和元年度）

○ 令和3年3月 国指定（史跡）

○ 令和3年4月 埋蔵文化財専門職員を採用（会計年度任用職員）

○ 令和3年6月 史跡下岡田官衙遺跡を管理する地方公共団体として指定を受ける

○ 令和6年3月 史跡下岡田官衙遺跡保存活用計画策定

大綱：山陽道の研究のさきがけ、下岡田官衙遺跡。多くの人々に学ばれ親しまれ、府中町の誇り・地域のシンボルとなる史跡を目指します。

○ 令和6年4月 史跡指定地の公有化に着手

【 今後の計画 】

保存活用計画に基づき、本史跡を守り、後世へ伝えていくため、段階的に公有化を進めるとともに、公有化した土地の発掘調査を実施します。

令和7年度	令和8年度～
公有財産購入（約500㎡） 不動産鑑定・測量 発掘調査	発掘調査 暫定的整備

提案概要

文化財保存事業費関係国庫補助金の確実な配分

保存活用計画に基づき、令和7年度は、史跡指定地のうち地権者の同意を得ている土地を購入するとともに、令和6年度に公有化した土地の発掘調査を実施することから、国庫補助金の確実な配分を要望します。

【 令和7年度事業 】

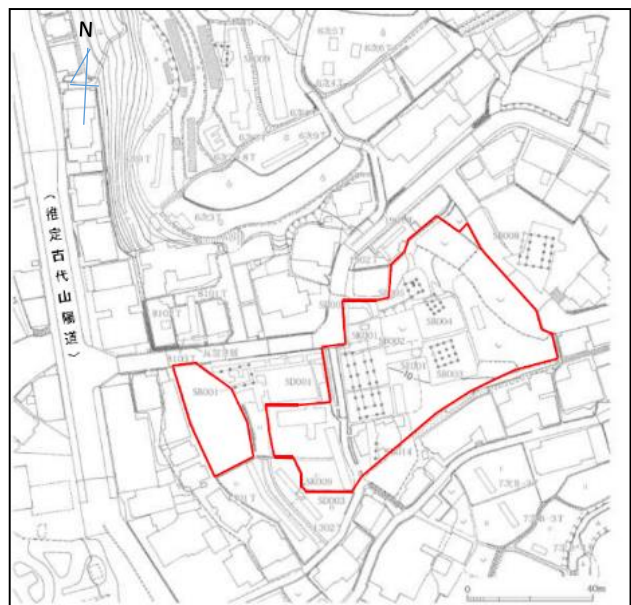
土地購入事業		(単位:千円)
補助対象事業費		48,972
国費 史跡等購入費国庫補助金		39,177

発掘調査事業		(単位:千円)
補助対象事業費		3,441
国費 埋蔵文化財緊急調査費国庫補助金		1,720

【 史跡指定箇所 】



礎石建物跡



下岡田官衙遺跡の範囲（赤枠が史跡指定対象地）

【 普及・啓発事業（補助金対象外事業） 】（参考）

ふちゅう大好きキッズ育成プロジェクト（小中学生を対象とした下岡田官衙遺跡に関する講座等）

成人を対象とした下岡田官衙遺跡に関する講演会等

提 案 項 目	地域手当支給割合（級地区分）の変更について				
事 業 主 体	府 中 町	事 業 期 間	R7～	提 案 先	総 務 省
提 案 要 旨	地域手当支給割合（級地区分）の変更について				

現状及び課題

【 現 状 】

地方公務員の地域手当の支給については、令和6年8月8日の人事院勧告を踏まえ、令和7年4月1日に見直しする考えが示されたところです。今回の見直しでは、級地区分の指定を広域化するなど大きくりな調整方法に見直す考えから、現在の市町村ごとに指定している級地区分を都道府県を基本とする指定へ見直されました。しかしながら、一方で、都道府県庁所在地及び人口20万人以上の市については、個別に設定する別の級地として指定されました。そのため、広島市は、四級地（百分の八）に指定され、町域の四方を広島市に囲まれた当町は、広島市と同じ都市圏を形成し、民間の賃金等での格差がないのにも関わらず、五級地（百分の四）に指定されました。

【 課 題 】

当町において、広島市との地域手当の格差は、来年度からの地域手当の支給見直しでは、是正しておらず、有為な人材の確保が困難である状況が続いています。
また、広島広域都市圏内の連携・協力の取組が促進されている現状において、近隣市町村間で支給割合に差があることによってそうした取組を阻害する要因となる可能性があります。

町の概要と他制度等における地域区分

【 町の概要 】

当町は、政令指定都市である広島市に四方を囲まれた面積10.41平方キロメートルの町で、町域の西半分が市街地化し、広島市と連担した市街地を形成しています。

人口は、52,209人（令和6年9月1日現在）で令和2年国勢調査時に比べ1,054人（約2%）増加しています。また当町は、マツダ（株）に代表される企業城下町として発展を遂げてきましたが、平成16年3月には大規模複合商業施設であるイオンモール広島府中が開業し、現在では「商・工・住のバランスがとれたまち」として各種施策の推進に努めています。

【 他制度等における地域区分 】

当町の他制度における地域区分は、地域実態を鑑み、次のとおり広島市と同一地域とされています。

■広島市との地域区分比較 ○厚生労働省関連※1

【対象地】	【地域区分】		
	①障害福祉サービス等 報酬単価	②介護報酬単価	③診療報酬の地域加算
広島市	5 級地	5 級地	5 級地
府中町	5 級地	5 級地	5 級地

同一の地域区分

※1 国家公務員の地域手当の地域区分を基本として設定。

当町は、官公署を有する対象地域（広島市）に囲まれた地域として区分設定されています。

提案概要

地域手当支給割合（級地区分）による地域格差の是正

当町は、広島市と都市事情等に差異はなく、同じ生活圏、経済圏にあるにもかかわらず、地域手当の支給割合が低く抑えられていることから、有為な人材の確保など行政運営上、多大な影響を及ぼしています。また、広島広域都市圏内で実施している事業の連携・協力をより一層促進するためにも、地域の一体性を考慮した支給地域の補正など、級地区分（地域手当）を広島市と同一区分とすることを要望します。

【参考資料】

図-1：広島市本庁と各区役所間、ならびに府中町役場までの直線距離

各区役所と比較しても、広島市中心部に所在する広島市本庁に近接し、同一雇用圏、生活圏を形成しています。

図-1

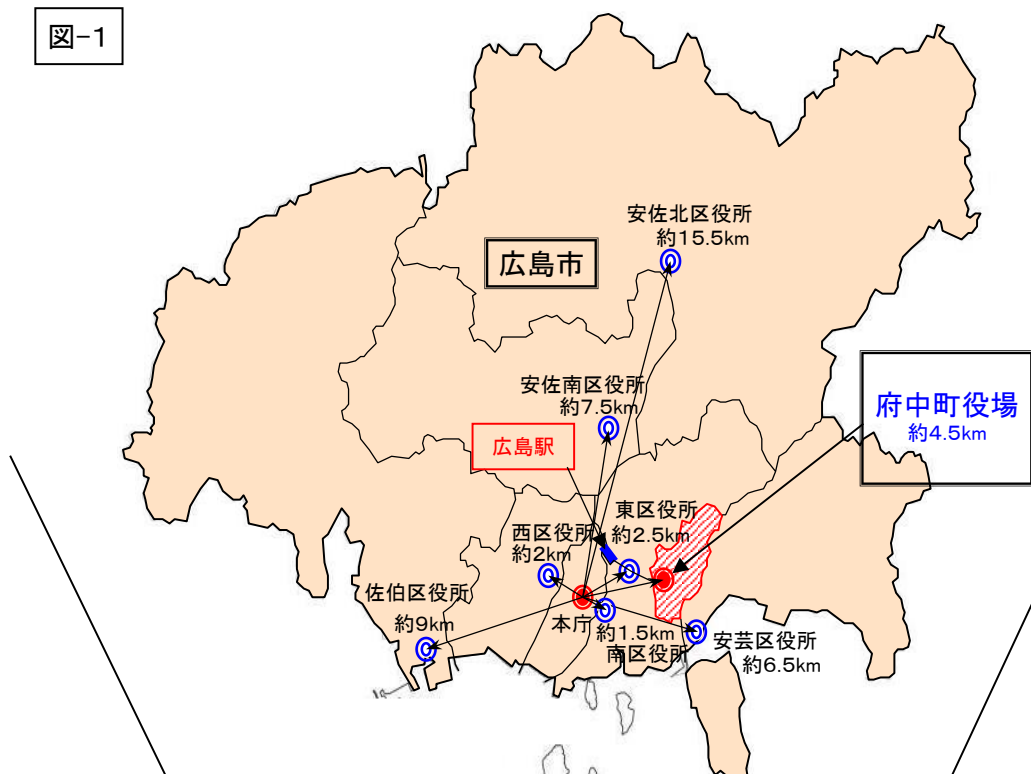


図-2

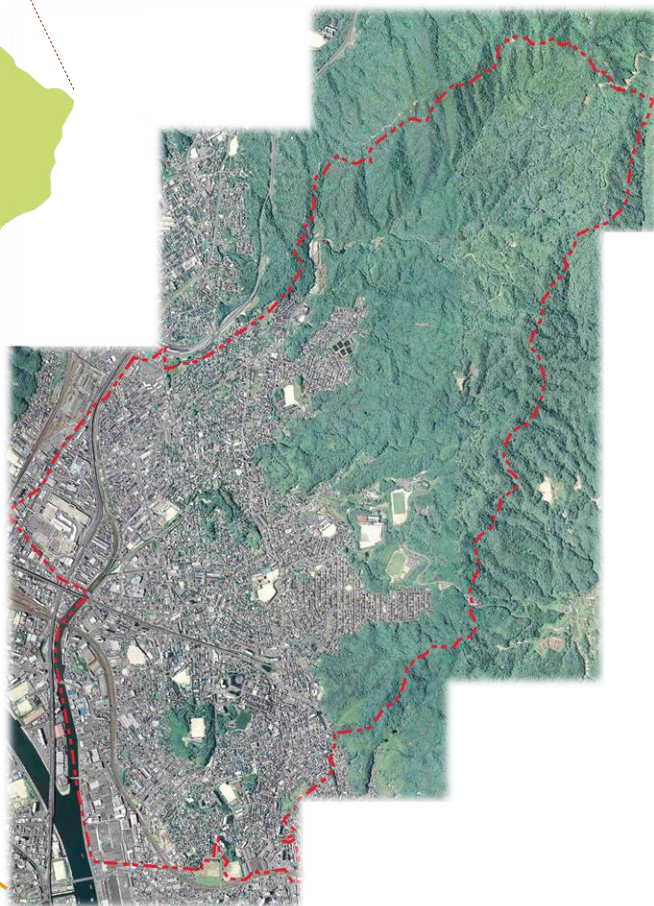


図-2：広島市に四方を囲まれた府中町の立地環境

◆府中町の広域的位置◆



◆府中町の土地利用状況◆



- ・まちの人口：52,209人（令和6年9月1日現在）
- ・まちの面積：10.41km²（市街化区域5.64km²）
- ・まちの人口集中地区（令和2年国勢調査）
DID区域面積：5.78km²，DID区域人口密度：8,805.0人/km²

広島県 府中町

〒735-8686

広島県安芸郡府中町大通三丁目5番1号

電話（082）286－3121（政策企画課）

FAX（082）286－3199

Mail kikaku@town.fuchu.hiroshima.jp